

のべ400人の参加！

「6・2浅川ダム現地視察とダムはいらない県民集会」 へのご参加とご協力、ありがとうございました。

午前9時からの現地見学会には150名余が参加。長野市議などの先導で車に分乗し、浅川が信越線の線路の上を流れていた典型的な天井川が河川改修により10メートル以上掘り下げられて天井川を解消した稲田のめがね橋周辺、新幹線の車両基地周辺、浅川と千曲川の合流点付近の排水機場などを、石坂ちは県議などの説明により調査を実施しました。

たたかいはこれから・・・県民の世論と運動こそ事態を切り拓く原動力 納得できないダム建設には、 あきらめないで、力をあわせてがんばりましょう

午後の集会には約250名が参加し、5月に日本共産党県議団と長野市議団が実施した、島根県の益田川ダムと奈良県の大滝ダムの視察報告を、野々村ひろみ長野市議と和田あき子県議が行いました。特別報告として、国土問題研究所理事長の奥西一夫京都大学名誉教授は、「大滝ダムは安全性に対する事前の考えの甘さが問題だった。浅川ダムについても十分な検討が必要」と指摘しました。

石坂ちは県議は情勢報告で「吉村知事の時代にも住民運動と議会の奮闘で、ダム本体の発注を6回も延期させてきた。県の公聴会で発言した約90人も、ダム建設の賛否は半々に分かれたが、圧倒的多数の人が要望したのは、千曲川との関係で引き起こされる内水被害の緩和、その為の遊水地の設置や千曲川改修の前進だった」ことなどを紹介し、浅川流域の多くの住民が共通して願っている「内水被害の緩和」よりも「ダム建設」を優先させるという県の河川整備計画を、国への認可申請に当たって修正させていく取り組みを呼びかけ「たたかいはこれから。県民の世論と運動こそが事態を切り拓く原動力。納得できないダム建設には、あきらめないで力をあわせてがんばりましょう」と報告しました。

「参加して本当に良かった。子どもたちの為にも自然を守って」

・・・参加者の感想から

■集会に参加した方からの感想を一部ご紹介します。■

「我が家のポストには『県民集会』のチラシが入っていなかったが、ある方からの電話で、今日のことを知ることができ参加しました。村井県政になって突然ダム造りの方向に変わってしまい、どうして？ 何かおかしい！ と思いつつも、反対する方法がわからないでいる私のような市民は沢山いると思います。千曲川のこと、ダムのこと、ダムに関する県政の状況などわかり、本当に良かったと思います。……中略……未来ある子どもたちの為にも、この長野の美しい自然を守っていくことは第一に考えていかなければならないことと私は思っています。……」

ご要望をお寄せください

連絡先：日本共産党長野県議団 長野市南長野幅下692-2
TEL 026-237-6266 FAX 026-237-6322ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail jcpngnkd@avis.ne.jp